

ヒューマンハーバー



3月号 協同組合ハイコープ組合報
Vol.195 2011年(平成23年)3月10日(木)発行



◆ 4月訪問する、春うらの植村牧場
女性経営者が「日本一遅れた牧場」といい
訪問者は「未来を先取りした牧場」という



◆ 4月経営トップの修学旅行で経営の
神様と出会い、対話できるスポット
「松下資料館」

CONTENTS

| | |
|--------------------|---|
| 巻頭「インフレの足音」 | 1 |
| 世界中で止まらない物価の高騰 | 2 |
| 先進国にも迫りくるインフレの嵐 | 2 |
| 金利上昇は止めようのない世界的な流れ | 3 |
| 今後の日本はどうなる? | 3 |
| 経営トップの修学旅行 | 4 |
| 長野地区本部事業報告 | 4 |
| 写真で綴る関連事業・スケジュール | 6 |
| PETIT情報・編集後記 | 6 |

インフレの足音

昨年の本誌11月号、今年1月号で予測したとおり、昨年末までデフレ一色だったのに、ここに来て世界中でインフレの波が襲ってきました。その大きなきっかけとなったのはやはり食料価格の高騰にあり、それがエジプトやチュニジアそしてリビアでの民主化を求める暴動につながった大きな要因のようです。

小麦の高騰は、日本では価格調整機能が働いて今のところ暴騰といわれるような深刻な状況にはなっていないようですが、原油の急騰は生活を直撃することとなり、にわかにはテレビやマスコミの報道も際立ってきました。つい昨年まではデフレ一色、インフレのイの字なかったのに格段の変わりようです。

こうして世界的な大変革が表面化する中であって、日本の政治には困ったものです。3月7日には外務大臣が辞任、大臣の名前も覚えないうちにコロコロ大臣が変わり、政策が変わり、あまりに日本の政治は軽すぎます。党利党略、個人欲丸出しの政争に明け暮れる日本の政党政治。国際社会での信用を失い、その隙をねらって尖閣諸島、竹島、北方領土が実質支配されて行く現実。景気刺激策も効いてきて株価も持ち直してきたし日本は総体的にはデフレだ。国の借金・国債も国内で調達しているので諸外国の借金とは違っていると開き直った見方がされていて、危機意識なぞ全く感じられません。